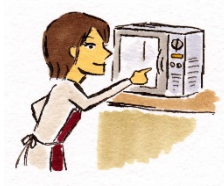


だけ間を空けずに入浴したいものです。どうしても間が空いてしまう時は、浮き蓋をするなどで、湯面が空気に触れないようにして、冷めにくい工夫をしましょう。

### 3) 炊飯ジャーや電気湯沸かしポットの保温をやめる。

「保温」は、ご飯やお湯が冷めてきたときに再加熱をすることと同じです。お湯は、沸かしたらすぐ魔法瓶式ポットに入れ替えましょう。60～85℃のお湯なら魔法瓶で十分得られます。ジャーで炊飯して3時間保温するエネルギー(約200Wh)と、粗熱を取って冷凍しておいた、ご飯を電子レンジで「チン」するエネルギーが同じだと思って下さい。ご飯を半日、保温しておくということは、結構ムダに電気を使っていることとなります。また鍋料理などでは加熱の火を止めた後の余熱の利用も省エネにつながります。



手段を工夫して、無駄なエネルギーを使わない。このことは環境省が進めている「COOL CHOICE」国民運動の1つと言えます。たのしく、この冬の「省エネ」に励みましょう。

## 大津市センターの活動報告と講座案内

### 環境情報合同交流会～おおつ環境フェスティバル2016～を開催しました

平成28年12月3日(土)にピアザ淡海3F305会議室において「環境情報合同交流会～おおつ環境フェスティバル2016～」を開催しました。参加団体：26団体、活動発表：6団体

この交流会は環境保全活動を行っている市民団体や、環境貢献型企業などの交流の場を設け、ネットワーク化を図り、様々な情報を共有することで、各団体の取り組みをより活性化させるものです。併せて、参加団体と共に、パネル展示や体験型学習を企画、実施し、一般の来場者に、楽しみながら市民団体や地元企業の環境保全に対する取り組みを知ってもらい、関心を持ってもらうことを目的としています。



### 低炭素時代を生き抜く市民・事業者セミナーのご案内



## 温暖化防止と事業活動

～温暖化問題による変化をとらえる～

日時：2017年2月10日(金)午後1時30分～午後4時  
 場所：コラボしが21 9階 大津商工会議所 大会議室  
 定員：50名  
 内容：気象データから見える気候変動  
 滋賀県の温暖化対策について(緩和策と適応策)  
 温暖化防止活動事例紹介  
 低炭素社会における事業者支援事業について

参加費  
無料

## 大津から始めよう！

新しいエネルギー社会の実現に向けて

日時：2017年2月25日(土)  
 午後2時～午後4時  
 場所：明日都浜大津5F大会議室  
 定員：30名  
 内容：☆しがエネルギービジョン  
 ～新しいエネルギー社会の実現に向けて～  
 ☆滋賀県下での再生可能エネルギー  
 ～農業用水路での小水力発電・農業と太陽光発電の共生・木質バイオマス発電の見学報告～



## 「環境経営で頑張る」 「有限会社 豆藤」さんを訪ねて

有限会社豆藤さんは、膳所駅に近い国道1号線沿いにある創業95年を数える老舗のお惣菜屋さんです。豆藤のお惣菜づくりは“おすそ分け感覚”を基本に地域に密着した事業を展開、現在の社長 鳥居静夫さんは3代目。創業当時は「昆布巻き」「煮豆」の行商が中心であったようですが、現在は「東山を越えたい」との方針のもと、京都のデパート等にも出店され事業を拡大されています。

お忙しい中、環境に対する取り組みについてお話をうかがいました。



Q：おおつ環境フォーラムの会員であり、毎年ご協賛も頂いています。お付き合いのきっかけは？

A：環境に取り組むのは大変なこと……“お金も・人手”もかかります

おおつ環境フォーラムを立ち上げられた時期は、まだまだ環境に対する意識が高いとは言えなかったと思います。当社も排水や生ごみの処理で、いろいろ模索している時でもありました。そんな時期に「環境フォーラムを立ち上げる」という話を聞き、“あれは竺先生やったかな、大変なことされるのやな”と思い、私は直接お手伝い出来ないけれども、少しでも活動資金になればと思って会費を払わして頂くことにしたのです。

Q：環境対策で最も意識されている問題は何でしょう？

A：排水と生ごみ処理に苦勞してきました

やはり排水の問題と生ごみの問題ですね。水は月当たり1,000㎡ほど使います。それが排水になるわけで、有機物や油を含んでいますから、水処理によって排出基準をクリアしなければなりません。当初の設備では上手くいかなくて、北海道からパルプチップを取り寄せてグリストラップにうかべて油分だけ吸収させ可燃性ゴミとして処分するとか、いろいろ工夫をしましたが、最終的には7千万近い投資で排水プラントを設置しました。それでも濃い煮汁や油と一緒に処理することは出来ませんので、手作業で除去して産廃として出しています。

A：生ごみは処理機で一次発酵して肥料に……市の焼却場の負荷軽減に寄与 東京都からも見学に

平成4年だったと思いますが、滋賀県の建築許可を受けるときに「町中でそういう仕事をしたらゴミどうするの」との指摘がありました。それではゴミを少しでも少なくしようと一次発酵の機械を導入しました。設備には600万程度の費用がかかりましたね。大体毎日180kg程度のゴミが出ます。これを産廃として業者に委託することを考えればプラスマイナスの経済効果もあるのですが、それ以上に大津市さんの焼却場の負荷を軽減しているということが大きいのではないかと考えています。機械を入れた時に東京都から見学に来られました。小さな事業所が自分のところで出す生ごみを、自分のところで処理している一つの事例紹介として取り上げたいとのことでした。

A：一次発酵後の肥料は農家に引き取ってもらい土壌改良に……初めのころは引き取り手に苦勞

一次発酵したものを農家さんが引き取って、冬場に地中深く埋めて二次発酵され土壌の改良に活用されています。最初は引き取り手に困りました。いまはまとめて引き取る農家があり、その他家庭菜園に利用されるところも何軒かあって大体全部はけています。こうした生ごみを一次発酵している事業者があれば、その活用を行政等が農家に紹介するとか、つなぎをして頂ければ非常にありがたかったと思いますね。成分分析の結果油粕に似た成分でしたから、店頭で広告を出して引き取り手を呼び掛けたりもしました。ある時、毎日新聞の局長さんが、ユニークなことをやっていると載せて下さったんです。その後、県も公報にスポットで流してくださったりして、徐々に引き取り手も増え殆どさげばけりになりました。

中小事業者として、精一杯環境に配慮をした事業運営をされていること、その中での苦勞、また、地域の産業と環境のバランスに配慮した行政の政策に対する思いなど、熱く語って頂きました。これからの益々の事業のご発展を強く祈念しながら事業所を辞しました。

訪問者 事業部 家城 弘和